

「届けたい！カラフルな声を」

六年 玉代勢 芽依

「あっ！大丈夫かな？」

学校からの帰り道、白杖をふりながら歩いて
いるお兄さんに、伸びきった木の枝があたっ
てしまっただ。お兄さんはおどろいて頭を抱え
ながらしがんだ。それを見た私は声をかけ
ようとしたが、男の人ということもあり少し
怖いなど感じ、そのまま通り過ぎてしまっ
た。しかし家に帰ってからもお兄さんの事が気
になり、友達との待ち合わせの時間より少し
早く家を出た。せっせきの場所に行ってみると、
お兄さんはまだその場所にいて、信号の前で
ずっど止まっていたので勇気を出して声をか
けてみた。

「信号青ですよ」

と声をかけるとお兄さんが、

「ありがとうございます」

と言っで道を渡り始めた。私はお兄さんが、
なかなか信号を渡れず困っている姿や、木の

枝にぶつかってしまったことから心配になり
しばらく後ろをついて行った。ちよ
うどその時、待ち合わせていた友達と会ったので、今
までの出来事を伝え、二人で勇気を出して声
を掛けてみようという事になった。

「大丈夫ですか？どこに行くんですか？」
と声をかけると猫カフエに行きたいと言っ
ていた。一人で行くのは大変だろうなと思い、
「一緒にいきますよ。」

と伝えると、一人で大丈夫だから…と断られ

たが、

「大丈夫ですよ。気にしないでください。」
と伝えると、

「ありがとうございます。じゃあ、お願いし
ます。」

と言っ
てくれて私達はお手伝いすることにな
った。私が最初に手伝おうと言い出したこと
だけど、男の人は少し怖いし、腕をつかまれ
るのはちよつと嫌だなと思い、友達にお願い
した。私はお兄さんの荷物を持ち、段差を知

らせたり、止まる時の声かけをした。
お兄さんは歩きながら、いろいろな話をしてくれた。目が見えない事で今まで、
「目の見えないふりだろ」
等、心無い言葉を言われたことがあるそうだ。
その経験もあり、私達にも
「身体障がい者手帳を見せましょ。うか？」
と言っていた。世の中にはこんなひどいことを言う人がいるんだなと思うと、胸がチクチクと痛くなつた。

後日、私も目が見えないという事がどれほど大変なのか気になり、家から学校まで目隠しをして棒を持ちながら歩いてみた。いつもは一分30秒で着く学校が、33分もかかった。見えない事で、すぐ歩けないし、左右もわからず、車の音や信号の音が聞こえるのに、どこに歩けばいいのかわからなくて、車道に5回も飛び出しそうになり、お母さんがあわてて手を引いた。
見えない事にイライラするし、ちょっととした

段差で転ぶし、お母さんが隣にいるのに、な
んだか独りぼっちの気がして不安でいっばい
だった。

あのお兄さんもきくと、私と同じように不安
でいっばいだったかもしれない。

今まで私は、学校の通り道は緑いっばいで
地面もカラフルでおしゃれだなと思っ
ていたが、障がいのある人にとっ
ては、カラフルな模様が凸凹して
いて、白杖では点字ブロッ
クとの違いがわかりにくいと思っ
た。また、車

いすの人にとっ
ても、運転しにくいと思う。

私は、道を直すのが一番いいと思うが、道
を直すのは簡単な事ではないと思うので、今
の私達に出来る事は、困っ
ている人を見かけたら、一人の時でも勇気を出して声をかけて
みることだと思
う。手伝いをお願いされた時
には、相手の事を考え、安心して歩けるよう
に優しく接していき
たい。

みんなにとっ
て住みやすい街となるように
色々な人の声を聞いてほしい。